

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190600116		
法人名	社会福祉法人 ナイスランド北方		
事業所名	グループホームきたがた湖山亭		
所在地	佐賀県武雄市北方町大字志久4531番地18		
自己評価作成日	平成29年2月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成29年3月6日	外部評価確定日	平成29年4月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>平成26年4月1日より開設し今年3年目を迎えています。「自分らしく、ほがらかに」の理念のもと、入居者様が、いつまでも、のんびり穏やかに過ごしていただけるように日々努めています。また、スタッフは認知症についての知識や理解を深めるために、様々な研修会や勉強会に参加し、学んだ事を職場にて報告や資料を回覧し、ケアの向上に努めています。</p> <p>とにかく自然環境に恵まれており、共用空間から見える景色は素晴らしく、どこかの別荘にでもいる感じになり、入居者様にも大変好評いただいています。そんな中で、天気の良い日は散歩に出かけたり、ベンチで風を感じゆっくりすごしたり、花壇の花の手入れなどその人らしく生きていける環境がそろっています。月毎の行事では、手作りお弁当を持って外出したり、運動会やお月見会などは、隣接する既存のグループホームきたがたと合同で開催し、施設内外の交流も図っております。入居者様とスタッフがとても仲良く生活している施設です。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の窓から見える湖と山々がおりなす素晴らしい景色は、利用者に季節感を感じさせ、心を和ませている。隣接する母体法人の広い土地内にある「美彩の森」は、車椅子でも利用できるように整備され、利用者はお茶を飲みながら景色を楽しんでいる。</p> <p>事業所は開設3年目であるが、職員は一体となって心を合わせながらの支援である。利用者の尊厳を最大限に尊重し、意欲を妨げることなく、タイミングを計りながらの支援により、利用者職員とはいい関係を保つことができている。一日の生活のおおまかな流れは利用者主体で、起床や就寝時間等もこれまでの生活習慣を大事にしている。管理者は、「お互いを尊重する・相手の心を思いやる・ゆとりを持ち、笑顔で接する・チームケアを大切にする・自分自身も大切にする」の5項目を介護の心得として助言、指導している。各職員も自分なりの目標を持って日常の支援にあたっている。職員の朗らかで明るい対応は、安心感を抱かせている。独自の家族アンケートも実施して運営に活かしている。</p> <p>また、ボランティアで地域の清掃に参加したり、認知症についての相談にのったり、納涼祭参加の呼びかけ、地域の協力を得ての避難訓練を実施等、地域とのつながりを深めている。</p>

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分らしくほがらかに」の理念を、管理者、職員で共有し、ケアを提供する際の道標と捉え、入居者の権利や尊厳が損なわれないよう理念を軸に実践を行っている。	全職員で協議して、地域とふれあいながら、その方らしく暮らしていただくための理念を創っている。理念を各職員が自分なりの目標として、具体的に捉えている。理念の唱和や掲示だけでなく、管理者は、介護する時に大切と思うこととして、5項目にわたって適切な指導や助言を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設するグループホームきたがたが毎年開催していた、お月見会を合同で開催し、また法人の納涼祭に加わり、地域近所の方々へ参加を呼びかけている。	地域の毎月の清掃作業や溝掃除等に、職員も業務に支障をきたさない範囲で、自主的に参加している。納涼祭でのふれあい、地元の老人クラブでの講師、子ども浮立の立ち寄り等地域との相互交流の機会も多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所付き合いを大切にし、近所の方の相談話を日常会話のなかから受ける事もあり、実践を通じて培った認知症の人の理解や支援方法を活かし行っている。また、運営推進会議にて、認知症についての啓発を行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者の状況や行事関係、職員が参加した研修や2ヶ月間の全体的な動き等を報告し、それに対する意見や助言を受けサービスの向上に活かしている。	会議では、避難訓練等の行事への助言、地域の情報、地域の方との交流への意見等、多岐にわたっての話し合いが行われている。職員による小学生の下校時の見守り活動は、会議での意見が運営に活かされた一つの例である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	公的制度を必要とする入居者の状況は常に市担当者に連絡を行い、連携を取りながら生活に支障が出ないようにしている。分からない事や問題がでた時は、市役所等へ相談している。	管理者は市役所福祉担当課や在宅支援センターに度々顔を出し、生活保護等の公的制度関係にかかわる相談をしている。また、事業所としての課題や疑問点などについての助言や情報をもらう等、連携が保たれている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の勉強会や研修で身体拘束によるリスクを理解し、当ホームにも勉強会を行っている。センサーマットの使用がやむを得ない時も注意の周知と定期的なカンファレンスを行っている。玄関施錠について現在は不審者侵入防止や職員が気づかない一人での外出を避けるため施錠しているが、開錠に向けてのカンファレンスも定期的に行っている。	諸研修や独自の勉強会、身体拘束に関する法人の委員会等で、拘束の弊害を十分に認識し、拘束の無い支援が実践されている。ただ、防犯や安全管理のため、家族の理解を得た上で、現在、玄関を施錠している。閉塞感を無くすために、利用者の様子を察して一緒に散歩したり、施錠を出来るだけ短時間にする等の方策を検討中である。	ホームの周りは湖や山もあり、安全管理上、また、不審者等の侵入に備えての施錠である。現在、職員が気づかないままでの利用者の外出の例も踏まえながら、玄関の施錠をしない支援について検討中であることから、その結果を見守りたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の勉強会や外部研修などで、入居者の人権を常に意識し、高齢者虐待防止法について学び話し合う機会がある。必要な時は、家族と話し合い、理解を求めたり、虐待が見過ごされる事のないよう注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「権利擁護」について法人の勉強会や外部研修等で学んでおり、学んだ事は職員で共有し、必要性がある時は本人と関係者で十分話し合いを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は文書に沿って説明を行い不安や疑問点に対しても、十分な説明に努め理解と納得を得たうえでやっている。解約は本人や家族が不安や心配にならないよう今後の事を十分話し合い、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の方から日々の会話の中で、意見や要望をよく聞く機会があり、それに向け出来る限り実現が出来るように取り組んでいる。家族には面会時や担当者会議時、電話等で、意見要望を聞いている。毎年12月には家族様にアンケートを実施している。	利用者や家族が何でも言いやすい環境づくり、雰囲気づくりを心掛けている。職員のある丁寧な対応は、家族の困っていること、不安、求めていることをよく聴いてくれると感ずることができる。家族と一緒にの外出、居室の環境づくり、衣服の入れ替え、転倒防止や椅子からのずり落ち等に対する安全上の配慮など、運営や支援に活かされた事例は多い。第三者窓口については利用開始時に説明がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のグループホーム会議や必要時に、職員からの意見提案を聞き業務については、全てとはいかなくも可能な限り反映できるようにしている。	定例の会議や定期的な個人面談等の機会、日常の業務の中で、職員からの意見や提案があつている。業務の変更や交代勤務、ヒヤリハットの報告記録を活かした支援、センサーコールの使用、実習生の受入れ等は運営に活かされた例の一部である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回自己評価や作文を職員全員に提出してもらい、面談も行っている。管理者代表者の評価も含め賞与や昇給に反映されている。代表者は個々の作文を通じて就業環境を把握し改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症リーダー研修や、実践者研修に参加した職員を中心に、職員一人一人勉強会を開催しケアの実践を行っている。また、施設内外の勉強会や研修に参加する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員を外部研修に積極的に参加させ、情報交換を行い、ホームの行事には、声をかけ参加してもらっている。また、チラシ配布を行い相互訪問活動に繋げ、交流しサービスの向上に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に本人に会い、日常会話を通じ情報収集提供を行い信頼関係を構築している。情報は職員全員で共有し関係作りがスムーズに出来、安心して本人が過ごせるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学時や入居申し込みの際に、困っている事、不安な事などの要望に寄り添い傾聴し、家族の抱える思いを受け止め安心して頂ける様な関係をつくるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の抱えておられる問題について、十分に聞き取りを行い、必要に応じて、在宅サービスや老人福祉施設等の提供または紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の得意分野において、家事全般に能力を発揮してもらい、長年培ってきた生活の中での知恵や手順等を助言してもらい、お互いに助け合い共に生活を行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、本人の日用品や嗜好品を定期的に届けてもらったり、病院受診後に外食をされるなど、協力を仰ぎながら、家族との絆を大切に過ごせるよう、共に話し合い支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の近所や地域の方の面会にて、馴染みの方との会話をされたり、本人の希望により自宅の様子を家族様の許可の元見に行ったりした。	近所を散歩する際に、顔を合わせた方と挨拶や会話を交わしている。お店や移動パン屋さんでの買い物は利用者の楽しみである。行きつけの美容室を利用する方もある。希望によって受診の帰りに自宅の近くや住んでいた地域までドライブを兼ねて出かけることもある。盆や正月に家族と一時帰宅をしたり、墓参りに出かける利用者もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立されないように利用者の状況を気にかけて、利用者同士が馴染みの関係を築いていけるように職員が間に入ったりして支援している。居室での生活が多い利用者にも行事などでは皆様と過ごして頂き孤立されないようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、面会や様子伺いを行い、これまでの関係性を大切にしている。必要に応じて相談や支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者との日常的な関わりや会話を大切に、そこから意向や希望を引き出し、また表情や行動の変化やサインを見逃さないようにしている。家族の面会の際は、希望や意向を尋ね、その内容に沿った支援を心がけている。困難な時は本人本位になるよう支援を検討している。	日常の関わりの中で利用者の心に寄り添いながら、細やかな観察、会話、つぶやき、表情や行動等のサインを見逃さないようにしている。家族からの情報等からも一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に本人や家族に会い、これまでの生活歴や馴染みの暮らし方を尋ねフェイスシートへ記入し職員間で情報の共有把握をしている。入居後も同様に本人や家族からの情報収集に努め本人の想いを大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別ケースに一日の過ごし方、心身状態、有する力などを記入し出勤時に目を通し全職員が現状の把握ができるようにしている。また、申し送りノートの活用で、状態変化があった時は記入し、口頭でも報告出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の生活に対する意向や要望を大切に、介護職員、主治医の意見内容を踏まえ、担当者会議で検討した様々な意見やアイデアを勘案し、介護計画を作成している。状態変化時はカンファレンスを行いケアの統一を図り現状に即した介護計画の作成をしている。	モニタリング、課題分析を大事にしながらの介護計画の作成である。家族の言葉で意向を表現してもらうとともに、日々の暮らしの中で自然体の利用者の思いを把握し、計画作成に活かしている。具体的で実現可能な介護計画が作成されている。介護計画の様式も新しく工夫されている。定期的、或いは利用者の状況の変化に応じて、随時、柔軟に計画が見直されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や申し送りノートに、日々の様子や変化、工夫した事、またケアプランに沿って実践した結果や気づきを記入、職員は出勤時必ず目を通し、情報の共有に努めている。情報を踏まえケアを実践していく中で意見や提案を出しケアプランの見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時生まれるニーズにおいて、話し合う機会を設け対応する事で、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの積極的な受け入れをしている。お月見会に地域住民の方をお誘いし、歌や三味線の演奏を披露し合い、お互いの力を発揮して楽しめるような環境作りをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切に、安心して医療が受けられるよう、かかりつけ医継続してもらっている。基本的には受診対応は家族だが、困難な場合は、往診を利用したり、ホームより職員が受診同行を行っている。医療機関と情報交換を行い適切な医療が受けられるように支援している。	利用者や家族が希望する病院、かかりつけ医での受診を支援している。受診にあたっては家族対応が原則だが、家族が遠方だったり、高齢の場合は、職員が支援している。週に3回の内科往診の支援もしている。歯科は往診歯科の利用を支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は入居者の健康状態の把握に努め、状態が変化した場合は、看護師に報告相談し、医師との連携を取りながら、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際は、日頃の生活状態等の情報提供を行っている。また、早期退院に向けて、病院関係者との情報交換や相談に努め、定期的な容態訪問を行っている。入居者が安心して治療を受けられるよう病院関係者との関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合における対応の指針や看取りにかかわる指針を説明している。重傷となられた場合は、本人と家族の希望を出来る限り尊重し、当ホームで出来ることを十分に説明しながら、方針を共有し、医療との連携を図り、チームで支援に取り組んでいる。	「重度化した場合における対応に係る指針」と「看取りに関する指針」を基に、事業所のできることで、できないことを含めて家族と話し合いがもたれている。家族、主治医とも方針を共有しての支援である。これまで看取り介護の事例は無く、家族の希望で、併設の特養での対応を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の安全管理委員会による勉強会にて、消防署からの指導による救急蘇生法やAEDの使用法、急変時の対応について、定期的に開催されており、参加し実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の、昼、夜想定で避難訓練行っており、行政、地元区長、近隣の住民の方、地元消防団、婦人会に協力を仰ぎ、地域一体の避難訓練を行っている。法人の安全管理委員会にて、防災知識向上への取り組みがされている。	消防計画に基づいて、消防署、地元の消防団、地域住民を含めての避難訓練である。夜間を想定した訓練は、日暮れが早く周りが暗くなる秋口に実施されている。避難経路、避難場所、火災通報システムもきちんと整えられている。非常時や避難訓練の知らせが近隣住民にも届くようにと、運営推進会議での提案があり、外部向けのスピーカーの設置につながった。	地域の特性から考えられる山崩れや土石流、大雨などの自然災害に対する備えも検討中であり、その成果を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に接する際は、目上の方への敬意を持ち、その方の人生背景や性格を考慮し、入居者と職員の距離感に気をつけながら、誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けや対応を心がけている。	利用者の尊厳、人間性、これまでの人生を尊重することを支援の基本にしている。利用者の一人ひとりに合わせたゆっくりと優しい言葉かけ、接遇、人生の先輩としての敬意を感じさせる会話である。個人情報取り扱いについても、契約時に話し合いがもたれ、守秘義務としてきちんと守られている。居室の表札や利用者名等がわかるものも見られない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの人生背景や性格を考し、自然に希望や思いの表出が出来るよう、雰囲気づくりや職員の振る舞い、言葉掛けにも工夫している。また、コミュニケーションを通じて、自己決定が出来るように働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合に入居者を合わせるのではなく、職員が入居者一人ひとりのペースに合わせ、出来る限り希望にそえるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容室に行かれる方や、訪問理容室を頼み散髪をして頂いている。また、好みや愛用のヘアートニックや化粧品など入居後も使用して頂き身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	生活歴などを大切に食後のコーヒーを提供したり、行事では特別メニューを用意し、利用者と職員が常に一緒に食卓を囲めるように機会を設けている。また、食材が配達された際には、一緒に運んだり仕分けをしたりしている。	職員も利用者と同じ食事を一緒にいただいている。利用者をそれとなく見守りながらの食事であり、食事介助が必要な利用者にもまずは自分で食事を摂ってもらっている。食事中はテレビを消してBGMを流す等、楽しい時間となるよう工夫している。食材は委託購入で管理栄養士による献立である。嗜好調査も献立に活かされている。テーブル拭き、食べ終わった食器の片付けなどを一緒にしている利用者もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専門業者の管理栄養士が作成した献立に基づき、一人ひとりの状態や力に合わせた食事量や食事形態を提供している。10時のお茶の時間には好みの飲み物を提供し、また時間にとらわれず、水分チェック表をこまめに見て水分不足と感ずる方にはその都度飲み物やゼリー等を提供し水分確保の支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯や自歯のブラッシングを促し、磨き残しについては、職員が一部介助することや必要な時は歯科往診や受診で指導を受け、清潔保持ができています。夜間は、職員サイドで預かり義歯洗浄剤に浸か管理している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、さりげない言葉掛けにてトイレ案内を行ったりして、パット確認等を行い失敗が減少出来るようにしている。排泄動作に不安がある方には、その方の動作に合わせ手順の説明を行いながら不安なく排泄できるように支援している。	一人ひとりの排泄のパターンや、習慣を把握し、排泄支援が行われていて、改善が見られた利用者もある。さりげない定時的な誘導や排泄が無かった場合はしばらくしてからトイレ案内、その方に合わせた大きさのパットを使用する、排泄不安をできるだけ少なくする言葉かけ等、様々な工夫がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量に注意し、献立に食物繊維やヨーグルト等の食品を取り入れることで便秘予防に努めている。個々に応じての支援にも心掛け、散歩や軽運動を促したり、慢性的に便秘がある方には医師と連携を図り服薬コントロールを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	プライバシーや羞恥心に配慮しながら、その方手順を大事にし入浴して頂いている。基本的な入浴スケジュールはあるが、お断りされる時もあり無理強いせず臨機応変な対応をしている。身体リスクがある方には安全第一で対応している。個浴にてのんびりした時間を過ごしていただいている。	冬場と夏場に分けて基本的な入浴日があるが、希望で毎日入浴している利用者もある。入浴曜日や時間帯、順番等は一応の計画があるが、それにとらわれず、好みの湯加減でゆっくりと入浴してもらっている。脱衣場の室温にも配慮し、これまで入浴後等に体の変調を訴えた方もいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日を通し状況に応じて、居室ベッドや畳の間ソファ等でいつでも休息をとって頂けるように言葉掛けや案内を行っている。室温や湿度等にも気かけ、本人の愛用品の寝具などを使用し安眠して頂ける様な支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の服薬状況や効能、副作用等を記載し、いつでも確認できるようになっている。服用されている薬についても理解をし症状の変化にも注意している。薬は個別の袋に入れ、誤訳防止のため、4回の確認を行い、服薬の際は、名前、日付を確認し誤薬がないように注意している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事全般を一人一人の能力や生活歴に合わせて行って頂いており、生きがいや喜びを感じて頂いている。絵、歌、裁縫等をしたり、近所の散歩や移動販売にてパンを購入されたりと楽しみや気分転換になるような支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気で気持ちが良い日には、個々や複数でその時に応じて散歩をしたり、移動パン屋さんが見えた時は、嗜好品の購入をしていただいている。行事で遠出をしたり、家族様との外出が継続できるように支援している。	近所や隣接する福祉施設の広い敷地内を散歩している。時には、車椅子でも行けるように整備された近くの「美彩の森」に出かけて、おやつやお茶を飲みながら風景を楽しんだりしている。家族の協力を得ながらの夕食や、初詣など季節ごとの外出支援も行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談の上、自己管理が出来る方は、お金を所持されている。外出した際に、お店で好きな物を購入されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望により、家族と話しがしたい時は、職員に言われ、電話をつなぎ話をさせていただいている。また、毎月のホーム便りにて、近況報告をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各テーブルや壁には季節の花や作品を展示している。廊下の隅には観葉植物を置くなど、季節感や生活環を大事にしようと心掛けている。室温、湿度調節も小まめに行い、騒音などにも注意し、居心地よく過ごせていただけるように支援している。	広い窓から自然の光が差し込み、美しい湖と山々が見える居間は、利用者がお気に入りの場所でもある。また、段差のない畳の間もあり、本や雑誌も置いてある。活けてある野山の花は、季節を感じさせてくれる。居間から出入りができるウッドデッキには美しい花々が咲いているプランターが置いてある。利用者が育てているチューリップの鉢もある。台所、トイレ、浴室、洗面所なども清潔さが保たれている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	室内のソファや、ウッドデッキのベンチ、玄関ベンチなどに座り、気の合う利用者同士で会話をされたり、またその場所で、一人で過ごしたい時はすごされたり、共同空間でテレビをみたりと、思い思いに過ごされるような居場所づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、テレビやソファ、衣類ケース等愛用品を持って来て頂き、馴染みのものに囲まれ不安なく生活が出来るように支援している。	それぞれの居室がその方を思わせ、落ち着いてゆっくりと暮せる所となっている。それぞれの居室には長年馴染んだ品や、お気に入りの物が見受けられる。自分用だった机や椅子、手鏡、畳表の敷物、好きな本、家族の写真、亡きご主人の思い出の品、お気に入りの服等色々なものを見受けられる。仏壇に毎朝お茶をあげている利用者もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力を把握し、居室やトイレなどに迷われないように道標や表示を掲示している。廊下やトイレ、お風呂場など手すりを設置し安全かつ自立した生活が送れるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない